

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603131	事業の開始年月日	平成12 月 11日
		指定年月日	平成12 月 1日
法人名	医療法人社団仁和会		
事業所名	グループホームひびき		
所在地	( 〒252-0232 ) 神奈川県相模原市中央区矢部2-1-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人に入院施設のある病院がある為、ご家族が安心して預けることが出来る。利用者が体調不良の際すぐに受診出来るので職員も安心して働ける。近くにスーパーやコンビニがある為、散歩がてら買い物に行ったりする事が出来る。
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月16日	評価機関 評価決定日	令和3年5月10日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所概要】</b> この事業所はJR横浜線矢部駅から徒歩7分ほどの住宅地にある。道路を挟んで横浜線が走っているが室内は騒音などほとんど感じられず静かである。線路の向こう側は米軍の補給基地で高い建物がなく見晴らしが良いため、事業所付近で電車を撮影する人もいる。利用者も職員と電車を見て楽しんでいる。建物は鉄筋3階建て、1階が駐車場と玄関で、2階、3階がグループホームになっている。 <b>【事業所の理念】</b> 理念は「触れ合い支え合い認め合い安らげる生活の場」である。理念はフロア内2か所に掲示して、職員間で共有している。また、利用者の目に理念が触れた時は理念についてともに話をしている。職員の年齢幅が広いので、時に娘や孫、友人のような、近い距離間で利用者に接するようにしている。 <b>【喫茶風な趣向でおやつを楽しむ】</b> コロナ禍で外出イベントが中止になる中、職員が工夫をし、喫茶風な趣向でおやつを提供するレクリエーションを行った。普段提供しないポテトチップスや硬めの煎餅、クッキー、テレビCMで見たお菓자에数種のジュースなどを用意し、テーブルの位置を変え、模造紙で大きなメニューを作り、利用者に好きなものを選んでもらった。雰囲気が変わり、利用者は笑顔も多く、いつもと違う味に驚かれる方、いつもより食欲が増した方もいた。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひびき
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームひびき
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	中々地域密着型とはいかない部分が多い。理念はフロアーに掲示しいつでも見れるようにしている。	理念は「触れ合い支え合い認め合い安らげる生活の場」である。理念はフロア内2か所に掲示して職員間で共有している。また、利用者の目に理念が触れた時は理念についてともに話をしている。職員の年齢幅が広いので、時に娘や孫、友人のような、近い距離間で利用者に接するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加。保育園の散歩コースになっている為、通りかかった際に挨拶している	矢部自治会に加入し、回覧板が届き情報を得ている。自治会の行事は新型コロナ禍で中止となり本年は参加していない。コーラスなどボランティアの受け入れも現在は中止している。散歩時に近隣の方と挨拶を交わしている。声を掛けてくれる方もあり、庭で出来たみかんや花を頂いたことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かす機会がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナにより集まったの会議は行わず、書面にて報告書関係各所に郵送している。	運営推進会議は2カ月に1回、定期的に開催している。新型コロナ禍で令和2年4月から書面開催になっている。事業所の状況、今後の予定などを家族全員と参加メンバーに送付して意見をもらうようにしている。参加メンバーは家族代表、自治会関係者、地域包括支援センター職員、民生委員である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護のケースワーカーと連絡取り合い。不明点や疑問点があれば質問したり、不明点などは高齢政策課に電話し確認をとっている。	相模原市高齢政策課担当職員には、運営推進会議の開催について相談に乗ってもらうなどしており、何かあれば相談できる関係を築いている。生活保護のケースワーカーとも連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は建物の構造上入室の確認が取れないことと、過去に不審者の侵入があった為防犯上やむをえず行っている。毎月フロア会議で拘束について勉強している。	身体拘束適正化委員会（参加メンバーは法人内3グループホームと老人保健施設の担当者）を3ヶ月に一度開催している。会議の内容はフロア会議で共有し、その他毎月身体拘束に関する勉強会をしている。ユニット入り口は鍵をかけていない。1階は玄関と駐車場になっており、外からは入室できないが、中からはボタンを押す事で外出できる。利用者が外に出る気配がある時、職員は声を掛けたり、付き添うなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や排泄時など傷や痣の有無の確認。フロア会議等で情報の共有や勉強会を行っている。外部の研修にも参加していたが本年度はコロナ禍の為、参加できていません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が学ぶ機会がないが、後見人制度を利用する方がいる為学んでいかなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は本部で行っているが、入所後家族からの質問に答えられるように、本部と情報を共有し、質問等に答えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見箱の設置、面会時や電話した際、生活の様子を伝えたり質問しやすいように声掛けしている。	面会時やケアプラン確認時に家族に意見や要望を聞いている。その他、個別に月1回、本人の様子や予定を家族に報告している。家族から意見は寄せられていないが、新型コロナ禍で外出を控えていることには理解を示してくれている。現在、面会は電話や、オンラインのほか、1階の自動ドアの前でガラス越しに対面し電話で会話する方式で行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部で面談を行い、職員の意見を吸い上げている。フロア会議を毎月行っている。また、休憩中など日常会話の中で意見を言いやすい環境を作っている。	法人本部が職員全員を対象に行う個人面談があり、意見を聞いている。その他、毎月のフロア会議や管理者が事務室で職員と2人になった時などに声を掛けて意見を聞くなど、職員が話しやすいように工夫をしている。行事やレクリエーションは職員が企画して中心になって行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の意見を聞き職員の配置や、仕事がしやすいように、ハード面ソフト面の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の研修に参加していたが本年はコロナ禍の為、DVDなど利用し研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により出来ず。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時に質問や要望などを聞き柔軟に対応できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に、今までの生活歴や家族との関係性、家族の不安や要望を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、訪問マッサージや訪問歯科などの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事や出来そうなこと見極め出来そうなことは一緒にやっていたく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し家族と共に支援していけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族だけでなく、知人など面会に来ていただいている。コロナの為様子をお伝えしたりしている。	新型コロナ禍で知人などの面会は減少している。訪問者の中には建物内に入らずインターホンで利用者の様子を尋ねて安心して帰られる方もいる。利用者の自宅近くに散歩へ行くなど馴染みの関係を継続している。趣味の切り絵やちぎり絵が継続できるように材料を用意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や関係性を把握し、食席など考えて配置する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や、入浴時など会話しながら、希望や要望などを聞き、意向の把握に努めている。	日常の会話や入浴時などに利用者の意向を把握している。把握が困難な方は家族から話を聞いている。また利用者の表情の変化を見て意思表示を判断している。把握した情報は朝夕の申し送り時や申送りノートで共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室は個室で好きなように家具や絵を飾ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や入浴の基本的なスケジュールはあるが、個々のペースで生活出来る様に配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや、モニタリングを行い、家族にも意見を聞き作成している。	介護計画は本人、家族、職員、往診医、マッサージ師の意見を反映させて作成している。アセスメントと短期目標は6か月毎、長期は1年毎、状態に変化があった場合はそのつど見直している。「個別の記録（支援経過表）」の記入時にケアプランの目標番号を併記して、計画の実施状況を確認することで、モニタリングや介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に連絡ノートに記入し、情報共有し見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個々の希望に沿った支援ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際はボランティアをお願いしていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度法人の医師がかかりつけ医として往診に来る。また専門外の場合は紹介状を書き他科受診がスムーズに行くようにしている。	入居前からのかかりつけ医に家族の対応で受診している方がいる。家族が対応できない場合は職員が同行している。受診結果は「入居者受診簿」や「連絡ノート」で共有している。月1回、協力医療機関から医師と看護師が往診に来ている。歯科医と歯科衛生士はほぼ全員が契約している。週1回（月4回）の訪問があり治療、口腔ケアを行っている。その他、訪問マッサージを利用する方もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師が同伴し相談やアドバイスをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員など関係者と連絡をとり、スムーズに入退院出来る様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に終末期の希望の書類を書いていた。また、利用者の状態や、家族の気持ちが変わったときに、往診医を含めて話し合いを行っている。	家族に事業所の方針を説明し、入居時「私の医療に対する希望（終末期になったとき）」、「緊急時の対応方針について及び受診先・入院先医療機関」の書類に記入してもらいサインを得ている。重度化された場合は延命治療は出来ないが、母体が病院なので入院を希望すると移る事ができる。	日常の健康管理や急変時に冷静に対応できるように研修の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時、緊急対応マニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期防災訓練を行っている。運営推進会議時、災害時の協力体制や、避難場所確認を行っている。	年2回（令和2年5月、11月）夜間の火災想定で、消火、通報、避難訓練を実施した。ユニット別に避難誘導方法を明記した「火災時の避難方法」を備えている。災害備蓄品は水、ご飯、カレー、シチューなど利用者の3日分を備蓄している。備蓄品を使った非常食の献立を作成している。	新しく購入した冷蔵庫については地震に備えて固定することが望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や人格を尊重しながらも親しみやすい声掛けを行っている。排泄や更衣など気を付けて対応している。	フロア会議で接遇や利用者の対応について話し合っている。利用者の人格を把握し、敬語を原則としつつ、人によってはフレンドリーな声掛けをするなど、その方に応じた対応をしている。表情や様子から利用者の状態を見極めて声のかけ方を変えている。プライバシーに関わる事は1対1で居室で行うようにしている。個人情報が含まれている書類は鍵のかかる書棚に保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような声掛けをしたり、出来ない方は表情や仕草からくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の時間の割り振りはあるが、本人の気持ちやペースに合わせた生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人に選んでもらっている。希望者にはネイルなどおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、出来る範囲で好みの味付けにしたり、麺をご飯に変更するなど行っている。食事時は同席して一緒に食べている。お盆拭きや、野菜の皮むきなど一緒に行っている。	食事は献立付きの食材を注文して職員が作っている。献立には行事食も取り入れてある。また月1回、特別食があり、赤飯、天ぷらを提供している。職員は利用者と食事をしながら食事介助をしている。利用者の希望で年2～3回、寿司など出前を取っている。その他、好きなお菓子や飲み物を自分で選べる喫茶のイベントを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態で提供している。ソフト食やトロミ剤の使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ずつ毎食後口腔ケア声掛けを行い、必要者には介助にて行っている。希望者には訪問歯科を利用して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での排泄交換は決まっているが他個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。夜間はpトイレを設置している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。昼間は立位が難しい方も職員2人体制で対応して出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレやオムツを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、ドクターと相談しながら下剤のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な曜日や時間は決まっているが、できる限り本人の希望に合わせて合わせるように努めている。個浴でリフト設置の為一人でゆっくり入浴できる。	浴室、脱衣所は暖房設備があり、ヒートショック対策をしている。基本の入浴は午前中に週2回である。入浴を好まない方には午後に誘ったり、職員を変えることで気分が変わり入ってもらっている。ユニット毎にリフト浴の設置があり半数の方が使用している。立位が難しい方はシャワー浴で対応している。季節のゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室の為室温など好みの温度で設定している。また、フロアにソファを設置し自由に休める様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時にドクターが説明し、更に職員が不明時は理解できるように説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好みに合わせた個別レク、洗濯たたみなど役割を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事としてドライブ等行っていたがコロナ禍の為本年度は近隣の散歩のみ。	新型コロナ禍の為に、外出のイベントや、近くの店への買い物は中止している。寒い時期は職員が散歩に誘っても利用者に断られることがあるが、近隣に週1回は出かけている。歩行が難しい方は車椅子を使用している。散歩に行けない時は駐車場での日向ぼっこで外気浴を楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で預かり。希望時は近くのスーパーやコンビニなど職員同伴で買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話を掛けたり手紙の投函を代理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、季節ごとに掲示物を変えたり、利用者の制作した作品の掲示をおこなっている。こまめな換気や温度調整を行っている。	リビングは採光が良く、換気を適宜に行い空調に配慮している。床暖房により冬も暖かい。テーブルは車椅子の移動がしやすいように間隔を広めに配置している。ソファでは利用者が話をしたり疲れたら横になったりしてくつろいでいる。イベントの写真や、正月は干支の飾りつけなどをフロア入り口に飾り、明るく見えるように心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の関係性を把握し食席を配置している。ソファや椅子を配置して自由にくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に希望の家具など使い慣れたものなど配置していただいている。	居室の入口は、部屋番号、名前、写真を貼って分かりやすくしている。エアコン、照明器具、ベッド、クローゼットの備え付けがある。利用者は仏壇、タンス、小さなテーブルとイス、テレビ、家族の写真、本、こけしなどを持ち込んで部屋作りをしている。タンスなど家具の配置は利用者の状態に合わせて配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー、手すり設置される。なるべく自由に生活出来る様に見守りを行っている。		



目標達成計画

事業所名

77L-7°ホムビビキ

作成日

2021年 7月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重慶化や終末期に対し今後のケアに打ち抜いていくか研修等したほうがよい。	看取り等に対する職員の変職を確認し対応出来る様にしておく。	外部の看取りの研修や、同法人のドクターセナースに勉強会等開いてIT・ITC	1年に一度は行う。 また、外部に研修あれば参加する。
2	13	災害対策として冷蔵庫の固定(転倒防止)がされてない	地震時キチンの冷蔵庫やレジなど固定時事故防止する。	冷蔵庫に転倒防止棒を固定し、冷蔵庫の転倒を防ぐ。	1日 (固定済)
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。